

行政評価（外部評価）結果総括表

＜令和4年度実施計画分＞

令和5年7月

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
地域を支える自立したコミュニティづくり (2-1)	概ね良好	<p>本政策については、概ね順調に推移していると評価する。</p> <p>地域を支える自立したコミュニティづくりにあたっては、若年層の地域づくりや自治会参加が重要であり、それらを促すには、長年培ってきた地域の在り方と新しい世代のニーズがバランスよく混在し機能していなければならない。</p> <p>若い世代が我が町に魅力を感じるような地域づくり、人づくりを提案し、変化する社会情勢にも常に柔軟に対応できるコミュニティの形成が図られるよう努められたい。</p>	1. 地域づくりの推進	82.5	<p>本施策は概ね順調に推移していると評価する。各地区交流センターを核としながら、地域計画に基づき地域住民と地区交流センターとの連携のもと地域に根差した活動が行われているが、活動への参加者が固定化されている傾向があることから、今後、若年層の地域参加を促す取り組みが必要である。</p> <p>また、自主的な地域づくり活動の実践が図られているが、活動内容等の情報発信を行い、より多くの団体が活用し効果的な取り組みに繋がる支援となるよう努められたい。</p>	31、32
			2. 地域コミュニティの維持	50.0	<p>本施策については、課題が散見される。自治会は地域コミュニティの中心的な役割を担う組織であり、地域づくりの最も根幹をなす組織であるが、ライフスタイルの変化や高齢化により加入率の低下、担い手不足等の課題が生じており、自治会の運営自体が困難となることも想定される。</p> <p>今後は、社会状況の変化と住民ニーズを的確に把握し、自治会運営に係る役員の負担軽減を図るなど現実に即した行政の支援が必要と考える。</p>	33

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
快適で住みよい環境づくり （2-2）	やや課題あり	<p>快適で住みよい環境づくりに向けては、やや課題があるものと評価する。</p> <p>例えば、治山治水をはじめとして抜本的な解決策が必要な点があることや、部局間の連携やソフト面での取り組みが不十分である点では課題が見受けられる状況である。</p> <p>今後は、情報化社会や環境変化などの情勢を十分に考慮しながら、より効果的で抜本的な取り組みの展開を期待する。</p>	1. 多様な住宅環境の整備	90.0	<p>本施策については、順調に推移していると評価する。</p> <p>空き家バンクについては、登録件数及び成約件数ともに増加しており、空き家の利活用に向けた有効な取り組みである。一方、空き家自体を無くすような根本的な対策の検討も必要である。</p> <p>家屋の解体に係る費用の助成など空き家を増やさないための町独自の対策の充実を図るとともに、県・国が主体となって対策を講じるよう要望活動を進めていただきたい。</p> <p>住宅の新築・リフォーム等に係る支援については、件数も増加しており、移住・定住に向けた有効な事業である。一方、移住・定住後の展開や、今後の情勢に合わせた事業の展開の検討が必要と考える。</p>	34 ～36
			2. 総合的な雪対策の充実	65.0	<p>本施策については、おおむね順調に推移していると評価する。</p> <p>除雪アダプトについては、取り組み自体は有効であり評価できる。一方、高齢化が進み共助が難しくなっている現状もあることから、取り組みの周知を徹底するとともに、雪害難民を出さないための対策を拡充する必要がある。</p> <p>近年、除雪オペレーター確保が困難となっているなか、育成支援により増員したことは評価でき、継続した取り組みが必要と考える。</p> <p>他方で、人材不足を克服するためには、オペレーターの処遇把握・改善や、昨今の技術を活用した雪状況の管理システム構築が課題としてあげられる。</p>	37, 38
			【第1小委員会深堀】 3. 住みやすい環境づくりの推進	47.5	<p>本施策については、やや課題があると評価する。</p> <p>ごみの排出量が増えている原因は、個人のゴミの出し方や生活様式の変化など様々想定される。ごみの排出量を減少させるためには、現状を分析するとともに、町民一人ひとりや企業の意識醸成に向けた具体策を検討・実施する必要がある。</p> <p>資源化率を上げるためには、意識醸成のための取り組みを行うとともに、収集日の増加や収集方法の変更など仕組み自体の改善等の検討が必要と思われる。</p> <p>また、リサイクルに対するモチベーションを向上させるため、町独自に環境に配慮した取り組みに対しポイントを付与するといったような住民がメリットを享受できる対策の検討が望まれる。</p>	39, 40

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
				深掘施策 (まとめ)	<p>【事業名：環境施策推進事業】 頻発化・激甚化する自然災害や光熱費の高騰など生活環境が大きく変化している中、環境施策の推進に関しては、地域、市町村、県、国が一体となり、連携・協力しながら展開していく必要がある。 住民一人一人の自覚と実践の積み重ねが大きな結果につながるものであることから、環境問題に対する関心を醸成し、環境意識を高めるための情報発信・啓発活動が重要である。 カーボンニュートラルの取り組みについては、暮らしに密接した問題であり、わかりやすく取り組みやすい節水・節電方法や省エネ家電の導入に関する講座など一層の普及促進に向けた効果的な取り組みの検討が望まれる。 再生可能エネルギーの導入に関しては、発電装置や蓄電池、ペレットストーブなど高額な導入費用が必要であることから、導入効果や導入時の支援制度に関する説明会を地区交流センターと連携して実施する等、環境教育の体制強化を図るとともに、導入費用への助成等支援の充実についても検討を進めていただきたい。 ゴミの減量化や資源化については、人口が減少しているにも関わらずゴミの排出量が増加している状況にあり、まだまだ改善の余地があると思われる。 各家庭や事業所におけるゴミの減量化や資源化もカーボンニュートラルにつながる重要な取り組みであることを周知するとともに、ゴミの減量化や資源化の取り組みのメリットを実践者が享受できるような対策の検討が必要と考える。 また、各家庭や事業所に対しゴミ問題に関する意識調査を行うなどゴミが減らない根本的な原因の調査研究が望まれる。 更に、カーボンニュートラルの町独自の取り組みとして生産者や製造業者等に対し過剰包装の規制する良策の推進や、町主催事業、イベントにおけるゴミ減量の徹底を推進するなど、町民に響く取り組みの実施を希望する。</p>	
			4. 暮らしを支えるインフラの維持	65.0	<p>設定した目標値及び実績の妥当性の判断が困難であるが、数値としては概ね順調であると評価する。 水道有収率を上げることや、高額である水道料金の改善も求められており、水洗化については、意識調査を実施するなど普及啓発の取り組みに期待したい。</p>	41、42

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
時代に応じた都市機能づくり (2-3)	概ね順調	<p>メディカルタウン周辺のまちづくり推進については、今後の事業区域拡大に期待をしている一方、新たに発生している課題（既存住民と新たな住民間の自治会の再編、交通・防犯対策等）について、行政と地域住民が連携し取り組んでほしい。</p> <p>小松駅、地域振興拠点施設周辺のまちづくり推進については、賑わい創出に向け今後の施策展開に期待する。</p>	<p>【第2小委員会深堀】 1. 医療、住宅、商業が融合したまちづくりの推進</p>	85.0	<p>施策として、医療、住宅、商業が融合したまちづくりに向け推進しており、町外からの定住人口も増えていることから、順調に進んでいる。</p> <p>その一方で、既存住民との円滑な地域コミュニティの形成(自治会の再編、自治会未加入)、交通・防犯対策(新しい道路環境)、景観環境整備(街路、置病東側土地等の草刈)といった新たな課題が発生していることから、早急に地域と連携した対応をお願いしたい。</p> <p>また、更に魅力あるメディカルタウンに向け推進するにあたり、今ある資源の活用(沼田川の河川整備による魅力UP等)や更なる挑戦(看護学校創設による人材育成、確保)を提案するとともにその実現を期待する。</p> <p>全国で定住人口増加のため実施している様々な施策に負けない、川西町の新たな定住人口増加のための施策の推進及び現行施策の拡充の検討をお願いしたい。</p>	43
				深堀施策 (まとめ)	<p>【事業名：メディカルタウン整備事業】</p> <p>総合病院を中心とした道路アクセスの利便性や虹のみえる丘の癒し漂う緑豊かな風景を活かし、官・金・民それぞれ連携を取りながら、北側エリアは、住宅区域、商業区域の整備推進が順調に進んでおり、定住人口も増え、経済効果もあることから、この取り組みを大いに評価できるとともに、今後更なる企業誘致、公共施設の整備、南側エリアの住宅区域整備が推進することから、将来発展する地区として多いに期待できる。</p> <p>その一方で、既存住民との円滑なコミュニティ形成、開発周辺地域への影響、環境整備等の現在発生している課題に対して、早急な対応をお願いしたい。</p> <p>事業内容について、この度改めて説明を伺い、前述のとおり委員一同、持続可能なまちであり続けるための事業として大いに期待しているところである。今後の推進に対しての各委員の提案内容は次のとおりである。町独自の発信性と機能性をもち、子供達が川西町に残りたいと思える魅力的な町となるよう、今後の事業展開に活かしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度開通予定道路(梨郷道路・R287)以外のタウン住居者の居住周辺の道路整備(大塚小学校までの通学路等) ・周辺の環境整備、河川整備 ・アパート(単身世帯用も含めて)、看護学校の誘致 ・交通弱者(高校生、高齢者等)交通手段の対策 ・公共施設については、交流センター、幼稚園、役場機能の出先窓口、屋内外遊戯場、川西町独自の発信 を持った機能とデザインを持つ施設としての整備推進 ・屋内公園、ボルダリングやスケートボード、ヨガやダンススタジオなど新しいスポーツ、カルチャー施設等、他地域からも求められるような施設の整備(公民運営どちらでも) ・川西町のみ構想にとどまらず置賜の中心地としての構想になるよう、隣接市町に意見協力を求め総合的発想による事業展開 	

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
			2. 中心市街地の活性化	80.0	施策として順調であり、羽前小松駅を中心としたイベントによって賑わいが戻りつつある。現在、旧庁舎等跡地に「地域振興拠点施設整備」が進められており、この整備完了により、小松駅及び拠点施設周辺の活性化が図られることを望むとともに、その他駅前空き地等を含め、今後更なる中心市街地活性化に向け、社会情勢の変化を見据え、効率的で機能的な施策の推進を期待したい。	44

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
安全で機能的な交通ネットワークづくり (2-4)	概ね順調	<p>幹線道路の整備促進は、交通量の増加を見据えた交通安全の強化や、冬季の交通安全確保に係る住民の要望に応える等、住民の安全を最優先にした事業を継続していただきたい。また、川西バイパスの完成により町への訪問者の増加が見込まれるため、川西町のブランディングと連携したイベントや観光施設の発展に力を入れ、公共交通機関利用者の増加に繋がることを期待する。</p> <p>さらには、国や県が進めている交通整備事業に応じ、整備周辺地域及び町中心部への安全なアクセス策を講じていただきたい。</p> <p>道路、橋梁等を以前同等以上の長寿命化修繕や地域振興拠点施設周辺の構想と連動して駅前道路整備を推進するなど、安全で機能的な交通ネットワークづくり政策の実現を期待する。</p>	1. 幹線道路ネットワークの整備促進	90.0	<p>本施策の進捗は順調といえる。</p> <p>今後R287号川西バイパス第1工区の開通により、既存幹線道路の交差点について、交通量の多い地点や通学路に信号機を設置する等の安全対策が必須と考えられる。</p> <p>梨郷道路の整備は事業費を増額して進められたことにより進捗率が下がったが、KPIだけでは、その要因が整備の遅れなのか、全体の事業費が増額したのか見え難い。またこの道路の開通による町中心への人の流れが多く期待できないため、流れを作るための今後の施策に期待したい。</p>	45, 46
			2. 生活道路等整備促進	95.0	<p>本施策は順調に推移しており、目標を遥かに超える羽前小松駅を中心とした活性化事業の成果は高評価できる。R287号川西バイパスの開通後は更なる参加者の増加が見込まれるため、集客力のあるしょころのイベントをSNSで発信し、イベントと川西町のブランディングをリンクさせる等、関係各所と連携し、川西町の知名度アップに繋がる活発な事業に期待する。</p> <p>また、駅周辺の整備問題についても諸団体と協力しながら、並行して検討していただきたい。</p>	47
			3. 生活公共交通の確保	67.5	<p>本施策は概ね順調に推移している。</p> <p>デマンド型乗合交通については、利用者側に寄り添った方法を取り入れていることを評価したい。高齢者等の心の健康の保持も目的としているため、町内行事やイベントの案内を強化し、イベントの参加者及びデマンド交通の利用者の増加に繋げるとともに、地区交流センター等でも手軽に乗り降りできるようなシステムとするなど、更に交通弱者へ配慮した事業展開に期待したい。</p> <p>羽前小松駅利用者数が減少しており、人口減少による学生の減少や、ネットでのチケット購入等の利便性向上による駅利用率の低下が原因と思われる。しかし、駅利用者が増加することは川西町のブランディングに繋がる重要な要素と捉え、キャンペーンやイベント、観光施設の発展、首都圏など大都市との往来者の増加に有効な対策を考えるなど、駅利用拡大に向けた取り組みの推進を求める。</p>	48, 49

行政評価（外部評価）結果総括表（令和4年度実施計画）

（視点2ちいきづくり）分野別目標：「楽しい」まちをつくる

政策名	評価結果	最終評価意見	施策名	評価点数	評価の理由	KPI No.
安全で安心な暮らしづくり (2-5)	概ね順調	行政と地域住民が連携し、地域全体で共に助け合う、安全で安心して暮らせるまちを目指し、災害時の地域における支援体制整備やICTを活用等した防災対策、行動の見える化等災害時に的確に動くことができるための施策の実施を望む。また、危険空き家が増加しないよう施策の推進を期待する。	1. 防災体制の充実	82.5	<p>施策として、順調だが、要支援者への支援者指定後の具体的な避難行動の不明確さや自治会、自主防災組織や消防団との繋がりの希薄さ、防災士育成の周知不足など課題がある。</p> <p>また、今後一人暮らし世帯や高齢者世帯が更に増加し、地域力の低下が予測されることから、災害時に生きる自助・共助意識の浸透と行動の見える化（個人の簡単な防災マニュアル作成、地域の役割分担マニュアル作成等）、各種団体の連携強化が必要と考える。</p>	50, 51
			2. 安全な生活環境づくりの推進	77.5	<p>施策として、概ね順調であり、交通安全対策については、かもしかクラブによる幼児、児童への教育指導や、幅広い年齢層への啓発等推進しており、今後も死亡事故ゼロ、そして交通事故減少に向けた取り組みを推進してもらいたい。</p> <p>危険空き家については、危険空き家になる前の対策（空き家バンク登録の利用等）や危険空き家となった際の対策（国県町の垣根を超えた対策）、大きな危険を伴う特定空き家の早急な解体対応など、その段階に応じた対策を強化し、今後増加することのないよう、推進してもらいたい。</p>	52, 53

プロジェクト・第2期川西町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【令和4年度分】

プロジェクト名	評価点数	評価の理由	KPI No.
【リーディングプロジェクト】 1. メディカルタウン整備推進プロジェクト	85.0	プロジェクトは順調に推移していると評価できる。今後一層企業誘致等が進められ、就労の場の確保等賑わいの拡大となることを希望する。	75～79
2. 地域経済活性化プロジェクト	50.0	本プロジェクトはやや課題ありと見受けられる。 幹線道路の開通とメディカルタウンの発展で町への訪問者の増加が見込まれるため、単身者向けアパートの建築等川西町内における居住、交流の選択肢を増やし、町への訪問者や移住を検討する方が増加することを期待する。 また、アフターコロナ意識が定着しつつある中、町民の意識改革や、ダリヤ園を中心とした観光施設の発展、名産品や個人飲食店の増加推進といった地域の経済活性化や川西町のイメージアップを目指す、町外に目を向けた大胆な事業の展開を期待したい。	80～92
3. 移住・定住・交流促進プロジェクト	55.0	本プロジェクトはやや課題ありと見受けられる。 若者世代の移住・定住には、子育てしやすい環境や、商業施設、娯楽施設の発展が重要と考えられるため、若者のニーズに答えられるような環境と支援ができる体制づくりを求める。 コロナ禍における人口減少に対する有効な施策が見出せていないと感じるため、今後アフターコロナにおいて、全国規模による交流機会の推進を図り、町出身者を介した町外者への広報など情報発信の方法を工夫し、より多くの人が集まる町となることを期待する。	93～101
4. 男女共同参画推進プロジェクト	65.0	男女共同の意識は時代とともに変化してきており、プロジェクトについても概ね順調に推移していると評価できる。 他方で、女性活躍に向けては家庭との両立等の課題も多くあり、より女性が活躍できる環境づくりが必要である。 加えて、男女問わず誰もが参画できる社会の実現に向けては、検診受診率の向上や、地域スポーツクラブ登録者数の増加を図りながら、更なる取り組みの展開を期待する。	102～108
5. 町民総活躍プロジェクト	65.0	コロナ禍の影響を勘案すれば、本プロジェクトは概ね順調に推移していると評価できる。 少子高齢化の進展に加え、コロナ禍による社会経済活動の低迷と人流の減少の影響を受け、町内各種団体の会員数や活動人数については減少傾向にあるものの、コロナ禍が終息しつつある中、今後は、地域おこし協力隊の定着数の増加に向けた取り組み等、コロナ禍前の水準への回復に向けた各種取り組みが望まれる。また、オンラインによる健康相談や各種講座の普及、若年層への予防医療の勧奨等、健康増進に向けた新たな取り組みにも期待したい。	109～118
6. 安心して暮らせるまちづくりプロジェクト	70.0	本プロジェクトについては、概ね順調に推移していると評価できる。 頻発化・激甚化する災害への対応が求められる中、自主防災組織の活動強化に向けた支援や各種防災情報の発信力の強化が必要である。 また、新型コロナウイルスの感染拡大を契機にリモートワークの普及が加速され、コロナ禍が終息に向かいつつある中においてもその動きは継続しており、本町においてもレンタルオフィス、コワーキングスペースの整備が望まれる。	119～126